

実践プラン例（5）

外国人保護者の仲間づくり

<エピソード>

幼稚園のPTA会長 A さんは、最近、幼稚園で見かける外国人保護者Bさんのことが気になっています。Bさんは先生と話しをするのに苦労しているように見えます。周りの保護者はどう関わってよいのか様子を見ていて、なかなか声をかけることができないようです。Aさんは何とか力になれないかなあと考えていました。

ある日、市のPTA協議会で他の幼稚園のPTA会長さんと外国人保護者の件について話していると、PTA担当の行政職員 C さんから「まずは、こちらから話しかけてみるのがいいんじゃない。PTAのカルチャー教室に誘ってみたら？」との提案がありました。

Aさんは、さっそくPTA役員に相談してみました。そうすると実は他にもコミュニケーションをとるのに苦労している保護者がいることがわかりました。Aさんは外国人保護者の人たちに声をかけてみることにしました。

4つのステージ

気づきを促す

学ぶ機会をつくる

情報提供する

できること気になることから始める意識の醸成

◆カルチャー教室（子どものエプロンづくり）において！

外国人保護者にPTAのカルチャー教室がある事を伝え、一緒に参加しないか誘ってみる。

<ここがポイント>

外国人保護者が参加しやすいように、教員も一緒に参加してもらえよう声をかけておきましょう。

○気づく

「想像していたよりも、自分の考えを伝えたり、相手の考えていることを理解するのが難しかったなあ」
「言葉以外にも、普段いろんなことに困っているんだなあ」

◆外国と日本の文化の違いを知ろう。

外国文化（衣・食・住）を学び、その後、文化の違いや生活習慣の違いによって、外国人が地域で生活するのに困っていることについて学ぶとともに自分たちにもできることを考えるワークショップを行う。

○学ぶ

「外国人って、私たちが想像できないことにも困っているんだあ」
「自分たちにもできそうなこと、いろいろありそうだけど、実際に何から始めたらいいんだろう」

◆外国人の生活を支える取組みの紹介

識字・日本語教室やNPO等が実施している外国人を支援する取組みの情報を紹介する。

<ここがポイント>

取組みの紹介だけではなく、関心のある人には教室を見学してもらい、現場の声にふれて感じてもらうようにしましょう。

○知る

「地域では、外国人に対していろんな支援がされているんだなあ」
「専門的な知識が無いわたしたちにも居場所づくりや仲間づくりのきっかけなら、少しはできるかも」

◆カルチャー教室（料理教室）を企画

PTAのカルチャー教室の中で、外国人保護者が講師（主役）となって、母国の文化を紹介できるような料理教室を企画し実施する。終了後、外国人保護者と次の企画を考える。

<ここがポイント>

お互いを尊重できる雰囲気を作り、助ける・助けられるという関係ではなく、対等な立場で相談できる仲間づくりを行いましょ。

○始める

「やっぱり、一緒に企画や活動すると仲良くなれるよね」
「PTAだけじゃなく、地域でも外国人保護者の仲間づくり始めてみようかな」

ここがねらい

地域に住んでいる、困っている外国人保護者が気軽に相談できる人を増やす。

○概要

PTA活動をとおして、外国人保護者が他の保護者と相談できる仲間づくりを行う。

参加者：PTA、保護者
実施場所：幼稚園、公民館等社会教育施設



取組内容

参加者の気持ちの変化

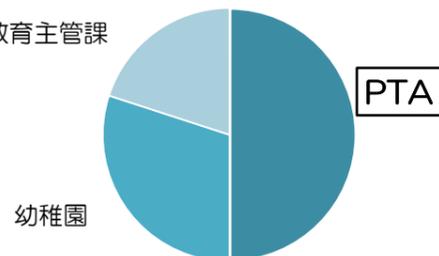
つぎへの工夫！ 外国人が言葉以外にどのような不自由さを感じているのかを学ぶ講座への参加を促す。

つぎへの工夫！ NPO等の職員を講師として招き、困っていることだけでなく解決できた事例も含めた情報提供をしてもらい支援の取組みへの関心を高める。

つぎへの工夫！ 外国人が楽しく参加できている取組みを紹介するとともに、仲間づくりにつなげる工夫等もあれば一緒に紹介する。

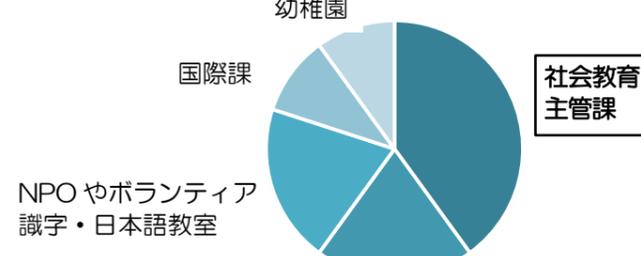
関わる団体と役割分担のイメージ

社会教育主管課



幼稚園

国際課

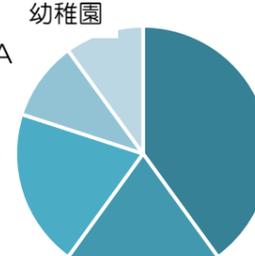


幼稚園

PTA

NPO・ボランティア 市民活動センター 識字・日本語教室

社会教育 主管課



社会教育主管課

